

事業事前評価表（技術協力プロジェクト）

作成日：平成 20 年 7 月 28 日

担当部：農村開発部第二グループ畑作地帯第二課

<p>1. 案件名</p> <p>イラン国「ゴレスタン州 住民参加型農業開発促進プロジェクト」</p>
<p>2. 協力概要</p> <p>(1) プロジェクト目標とアウトプットを中心とした概要の記述</p> <p>本プロジェクトでは、イラン国ゴレスタン州内に 40 ある灌漑地区の一つであるタザ・アバッド灌漑地区を参加型水管理の先進地区とするための活動を行う。すなわち、同地区から選定したパイロットサイトにおいて、灌漑施設の効果的な利用と、それを基にした適切な営農計画・灌漑計画の農民自身による策定・実践を通じ、水の効率的な利用と農業生産性の向上とを実現するための「参加型水管理モデル」の定着を図る。そして、同モデルのタザ・アバッド灌漑地区全体への普及と将来的な他地区への拡大のために、実施機関であるゴレスタン州農業局の能力開発と普及実施体制の整備を図る。</p> <p>(2) 協力期間：2008 年 10 月～2013 年 9 月（5 ヶ年）</p> <p>(3) 協力総額（日本側）</p> <p>約 5 億円</p> <p>(4) 協力相手先機関</p> <p>農業開発推進省農業用水利用適正化管理局、同省国際地域機関局、ゴレスタン州農業局</p> <p>(5) 国内協力機関</p> <p>農林水産省</p> <p>(6) 裨益対象者及び規模</p> <p>ゴレスタン州のタザ・アバッド灌漑地区（3,320ha）のペイバンド農業生産組合（RPC: Rural Production Cooperative）及びその組合員である農家（458 世帯）</p> <p>ゴレスタン州農業局職員 228 名（土壌灌漑部 26 名・営農普及部 90 名・栽培管理部 60 名・果樹園芸部 22 名、病害虫管理部 30 名）</p>
<p>3. 協力の必要性・位置付け</p> <p>(1) 現状及び問題点</p> <p>イラン国は石油、天然ガスをはじめとする天然資源に恵まれ、2006 年の国内総生産（GDP）は約 2,224 億ドル、一人当たり GDP は約 3,187 ドルと経済状況は良好であるが、同国の経済はこれら天然資源の輸出に過度に依存しており、石油価格の動向が国家の経済に大きく影響している。農村世帯の平均年間所得は都市世帯の平均年間所得の 6 割程度で、社会における所得分配の不平等さを測る指標であるジニ係数も非常に高い（43%、日本は 24.9%）など、非石油産業の育成による所得格差の是正が同国の課題となっている。</p> <p>農業分野は GDP の約 10%、就業人口の約 30%を占める重要なセクターであり、国土の約 8.5%に当たる 1400 万 ha が農地として利用されている。</p> <p>イラン国は国土の 3/4 が年平均降水量 300mm に満たない地域で、国全体の年平均降水量も</p>

250mm 程度に留まっており、農業にとって水の確保が重要な課題である。こうした中で JICA はこれまでに、北東部カスピ海沿岸の年平均降水量が多く（650～900mm 程度）水田稲作が盛んなマザンダラン州及びギラン州を主たる対象として、稲作の生産性の向上のため、技術協力プロジェクト「カスピ海沿岸地域農業開発計画（1990 年～1996 年）」及び「ハラーズ農業技術者養成センター計画（1999 年～2004 年）」を実施し、①圃場整備及び機械化稲作にかかる農業関係機関職員への技術移転、②これら技術の普及のための研修実施体制の整備、③農業関係機関の他職員や中核農民に対する研修を行なった。その結果、これら地域においては、圃場整備と機械化が進み、生産性向上（単位面積あたりの米収量の増加等）が図られてきている。

一方、その他の地域のうち、カナート（地下水源からの導水）を利用した農業以外の地域では、従来より天水農業が行なわれていたが、イラン国は、こうした地域を中心に、水資源の有効活用と、食料の安定的な確保、農業生産性の向上、農家所得の向上とを図るため、灌漑開発を進めてきた。

ゴレスタン州はこうして灌漑開発が進められてきた重要な州の一つで、州内の灌漑農地面積は 1996 年からの 10 年で約 4 割増加した。農業就業人口比率は 46%（全国一位）、州面積に占める農地面積（約 54 万 ha）の比率は 26%と高く、農業が基幹産業であり、主に飼料作物や小麦、大麦が栽培されている。

JICA は、このゴレスタン州のゴルガン平原を対象に、2002 年 1 月から 2003 年 2 月まで、水資源の有効利用と塩害防止策を考慮した灌漑排水計画の策定のための開発調査「ゴルガン平原灌漑排水及び農業開発計画調査」を実施し、その中で本プロジェクトの支援対象地であるタザ・アバッド灌漑地区など 2 灌漑地区の詳細開発計画を含む開発計画が策定され、①営農、②灌漑排水、③農業生産組合強化の方向が示された。

イラン政府は、同開発計画を受けて独自の予算で、主に施設整備の部分、例えばため池の建設、沈砂池の設置、地区の約 2/3 の水路のライニング、排水路の整備などの施設整備を実施してきているが、州農業局職員による農民への営農指導や農民組織の強化（特に水管理機能）が不十分なこともあって、灌漑計画管理や水路の維持管理の不足などにより、整備された灌漑設備が十分に機能していない。また、同開発調査で提案された作付け計画や営農方法も導入に至っておらず、塩害が発生している圃場も見られるため、地域の農業生産性は低く、農民収入も低い水準に留まっている。

このような背景のもと、イラン国政府は、農民自身による灌漑施設の効果的な利用と、それを基にした適切な水管理計画と営農計画を実践する「参加型水管理モデル」の導入により、水資源の効率的な利用、農業生産性の向上、ひいては地域農民の所得向上に資するための本技術協力プロジェクトを要請した。

(2) 相手国政府国家政策上の位置付け

イラン国は第 3 次国家開発 5 カ年計画（2001 年 3 月～2005 年 3 月）において水資源開発及び水資源の有効利用を開発重点項目として挙げており、これは第 4 次国家開発 5 カ年計画（2005 年 3 月～2010 年 3 月）にも引き継がれている。ここでは、水資源開発及びその有効利用の一環として水路整備、圃場整備などの灌漑開発を推進するとともに、農民の参加による水管理を最優先課題とし、灌漑地区の水管理を段階的に農民に委譲することとしている。天水農業から灌

溉農業へ転換する農民への営農指導や農民組織の強化を重点に掲げており、本プロジェクトはイラン国の国家開発計画に沿ったプロジェクトである。

(3) 我が国援助政策との関連、JICA 国別事業実施計画上の位置付け

農村地域の平均年間収入は都市部の平均年間収入の約 6 割に留まることから、対イラン国別事業実施計画では、都市と農村の格差是正を援助重点分野としており、持続的な農業生産の確立と農民の所得向上を開発課題として掲げている。この中で「都市と農村の格差是正プログラム」を設定し、灌漑排水施設の整備や適正な水管理、乾燥地域に適した農業技術の普及等を行うことで、限られた水資源の有効活用、天候に影響されにくい安定した農業生産システムの確立をめざしている。本プロジェクトは、同プログラムの投入の一部をなす。

(4) 他ドナー協力との関係

プロジェクトの実施対象地域であるゴレスタン州では、当該分野で他ドナーが実施する事業は存在しない。一方、水管理分野については、世界銀行の融資により、マザンダラン州において「アルボス統合的土地・水管理プロジェクト」を 2005 年 5 月から 2012 年 4 月の 7 年間で実施中である。同プロジェクトは、流域レベルでの統合型水資源管理の便益を実証することを目的としており、①上流域・森林・放牧地管理、②灌漑・排水管理、③統合的水資源管理、④環境管理、⑤プロジェクト実施・調整支援の 5 つのコンポーネントから構成されている。「②灌漑・排水管理」には灌漑排水システムの改修と新設、水管理組織の設立のための技術移転と施設の運営管理にかかる費用回収、作物多様化と水管理改善のための営農普及と研究活動が含まれる。本プロジェクトとは、「②灌漑・排水管理」において関連性が強く、実施期間も重なることから、同プロジェクトから適宜情報を入手して本プロジェクトの運営に活かす。

4. 協力の枠組み

ゴレスタン州のタザ・アバッド灌漑地区に組織された農民組織であるペイバンド農業生産組合に灌漑計画の策定や施設の維持管理を実施する技術者がおらず、灌漑施設を適切に運用できていないこと、その結果として同地区では農地の利用率が低く、農業生産性も低いことを考慮し、農民の参加による水管理計画の確立によって水管理状況の改善を図り、付加価値の高い作物を季節に応じて導入することで生産性の高い営農システムを確立する。こうして同地区が参加型水管理の先進地区となることを目指す。

そのためにまず、同地区を含むゴルガン川流域全体の水資源管理の状況を把握したうえで、同地区における灌漑計画、営農計画、施設維持管理計画を策定する。策定した計画を基に、同地区内の 2 次水路ごとに「参加型水管理モデル」¹を担う「水管理グループ」の設立を促す。

次に、設立された「水管理グループ」のなかから、パイロットサイトとなる「水管理グループ」を選定し、水管理計画、営農計画、施設維持管理計画の実践・実証を行い、「参加型水管理モデル」を定着させる。あわせて、パイロットサイト内に展示圃場を設置し、適切な水管理により導入される新しい営農技術を実践する。

そして、タザ・アバッド地区全体にこのモデルを普及させるために、ペイバンド農業生産組合及び各「水管理グループ」の構成員に対する研修を行い、能力強化を図る。また、タザ・アバッド灌漑地区の基幹施設の操作や維持管理を行い、同地区の営農計画や灌漑計画を策定する。

これら活動を支援するゴレスタン州農業局のカウンターパートには、研修やOJT、ワークショップの開催などを通じて技術移転を行ない、同州の水管理関係者（農民、農業生産組合職員、農業局職員、水公社職員など）に対しては研修やワークショップを通じて技術移転を図る。

また、ゴレスタン州内に40ある農業生産組合や他州へ参加型水管理の普及を図るため、これら研修やワークショップで用いる技術マニュアルを作成し、紹介のためのワークショップやフォーラムを開催する。

〔主な項目〕

(1) 協力の目標（アウトカム）

① 協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標・目標値

（プロジェクト目標）

タザ・アバッド灌漑地区に参加型水管理を普及させるための体制が整備される。

（指標）

- ・ ペイバンド農業生産組合がタザ・アバッド灌漑地区に参加型水管理を普及させるための実施計画を策定している。
- ・ ゴレスタン州農業局内で必要な予算措置と適正な人員配置がなされている。

② 協力終了後に達成が期待される目標（上位目標）と指標・目標値

（上位目標）

1. タザ・アバッド灌漑地区において、「参加型水管理モデル」¹の導入により、「水の生産性」が向上²する。

（指標）³

- ・ タザ・アバッド灌漑地区において、「水の生産性」が—%向上する。
- ・ タザ・アバッド灌漑地区において、農産物の収穫高が—%向上する。
- ・ 農民自身によって管理された灌漑水路の数が増加する。

2. 本プロジェクトの経験と知識がゴレスタン州およびイラン国における水管理組織の構築に活用される。

（指標）

- ・ タザ・アバッド灌漑地区の経験を活用して形成された水管理組織の数。

(2) 成果（アウトプット）と活動

①成果1：ペイバンド農業生産組合によって、タザ・アバッド灌漑地区全体の水管理計画が策定され、基幹施設（ポンプ場、1次水路、沈砂池、ゲートなど）の操作、維持管理が実施される。

（指標）

- ・ ペイバンド農業生産組合において、水管理、基幹施設操作・維持管理を行う適正なユニットの設置状況

¹ 参加型水管理モデルは農作物の多様化や季節に応じた栽培等、改善された営農とそのための水管理を農民自身が行う灌漑営農方法。2次水路（ローテーションブロック）ごとに形成する。

² 水の生産性の向上とは「水の使用量を減らしつつ、同使用量に対する食料の生産量または得られる便益を増加させること」とされる（FAO（国際食料農業機関））。

³ 各指標の目標数値はいずれもプロジェクト開始後の初期段階において設定する。「水の生産性」については、灌漑における水の使用状況を継続的に観測し、単位用水量当りの収穫量の変化を検証する。

- タザ・アバッド灌漑地区全体の灌漑計画の策定状況。
- タザ・アバッド灌漑地区全体の灌漑施設維持管理計画の策定状況。
- タザ・アバッド灌漑地区全体の営農計画の策定状況。
- 適切に管理されている1次水路の延長。
- 管理日報・月報の作成状況

活動1：

- 1-1 地域全体の現状を把握するためのベースライン調査を実施する。
- 1-2 タザ・アバッド灌漑地区内に、プロジェクト推進のための協議会を設置する。
- 1-3 タザ・アバッド灌漑地区の全体営農計画を策定する。
- 1-4 タザ・アバッド灌漑地区の全体灌漑計画を策定する。
- 1-5 タザ・アバッド灌漑地区の全体灌漑排水施設維持管理計画を策定する。
- 1-6 タザ・アバッド灌漑地区で活動するペイバンド農業生産組合に、水管理部門、基幹施設操作・維持管理部門など必要なユニットを設置する。
- 1-7 2次水路ごとの「水管理グループ」設立を支援する。
- 1-8 タザ・アバッド灌漑地区のGISデータベースを作成する。
- 1-9 基幹施設を適切に操作・維持管理するための研修を行う。

②成果2：パイロットサイトにおいて「参加型水管理モデル」が定着する。

(指標)：パイロットサイトにおける以下の活動の達成状況。

- 農民自身による水管理計画の実施状況。
- 水の損失を減少させるための農民自身による灌漑施設の維持管理。
- 灌漑計画に基づく、水量や気候に応じた栽培法と多品種化による改善された営農方法の導入状況。
- パイロットサイトにおける農民の参加率とその実数

活動2：

- 2-1 パイロットサイトを選定する。
- 2-2 パイロットサイトにおいて、「水管理グループ」を組織する。
- 2-3 パイロットサイトの灌漑計画を策定し実践する。
- 2-4 パイロットサイトの灌漑施設維持管理計画を策定し実践する。
- 2-5 パイロットサイトの営農計画を策定し実践する。
- 2-6 パイロットサイトにおいて、必要最小限の灌漑排水施設を整備する。
- 2-7 農民間の営農及び水管理に係る知識と技術の共有を図るために、タザ・アバッド灌漑地区の農民を対象としたワークショップと研修を実施する。
- 2-8 パイロットサイト内の展示圃場において適切な水管理の実践による新しい営農技術を導入する。

③成果 3：参加型水管理にかかるゴレスタン州農業局職員の能力が向上する。

(指標)

- ゴレスタン州農業局による参加型水管理にかかる研修教材の開発実績。
- ゴレスタン州農業局による参加型水管理にかかる研修実施の実績。
- パイロットサイトで参加型水管理モデルが形成された過程の分析結果。

活動 3：

- 3-1 パイロットサイトにおける経験を整理し、ワークショップ及び研修用の教材を開発する。
- 3-2 参加型水管理モデルの普及を行うための組織作りを行う
- 3-3 ゴレスタン州の水管理関係者（農民、農業生産組合職員、ゴレスタン州農業局職員、水公社職員など）に対するワークショップと研修を実施する。

④ 成果 4：ゴレスタン州内他地域へ、参加型水管理を普及させる準備ができる。

(指標)

- 作成した技術マニュアルの参加型水管理に関する政府政策の現状やその規定に係る分析結果。
- 作成した技術マニュアルのタザ・アバッド灌漑地区とゴレスタン州の他地域及びイランの他地域の自然条件や社会状況の相違に関する考慮状況。

活動 4：

- 4-1 ゴルガン川流域の灌漑地区間において、水質と水量を考慮した適正な水管理の調整方法を検討する。
- 4-2 ゴレスタン州内の他地域やイラン国内他地域へ参加型水管理を普及させるために、タザ・アバッド灌漑地区の経験の整理と検証を行う。
- 4-3 参加型水管理を普及するための各種技術マニュアルや報告書を作成する。

(3) 投入（インプット）

① 日本側（総額約 5 億円）

ア) 専門家派遣

長期専門家 4 名

- 1) チーフアドバイザー／参加型水管理
- 2) 灌漑排水
- 3) 営農システム
- 4) 業務調整／研修

短期専門家

- 1) 水管理政策（後半 3 年間で合計 12MM を想定）
- 2) 農民経営（5 年間で合計 13.5MM を想定）
- 3) その他

イ) 機材供与

- 1) 実証農業用資機材
- 2) プロジェクト事務所用資機材
- 3) 普及及び研修用機材
- 4) 気象、水文、水質、土壌測量に必要な機材

ウ) 本邦研修；

イラン側カウンターパートに対する研修（5年間で合計23MMを想定）

② 「イラン」国側

ゴレスタン州農業局における必要なカウンターパートの配置
タザ・アバッド灌漑地区内の展示圃場用地の提供
プロジェクト事務所スペースの提供、他

(4) 外部要因（満たされるべき外部条件）

① 前提条件

- ・ イラン政府の農民組織及び水管理にかかる政策が変更されない。

② 成果及びプロジェクト目標達成のための外部条件

- ・ タザ・アバッド灌漑地区への水の配分が悪化しない。
- ・ 気候条件が大幅に変化しない。
- ・ 農産物市場が安定している。

③ 上位目標達成のための外部条件

- ・ イラン政府においてゴレスタン州農業局への予算配分が十分に維持される。

5. 評価5項目による評価結果

(1) 妥当性

本プロジェクトは、以下の観点から実施の妥当性が高いと判断される。

ア) イラン国では、第3次5か年計画（2000年3月～2005年3月）において水資源開発及びその有効利用を開発重点項目に挙げており、これは第4次5か年計画（2005年3月～2010年3月）にも引き継がれている。その中で、水資源開発及びその有効利用の一環として水路整備、圃場整備などの灌漑農業開発を推進するとともに、農民参加による水管理組織及び水管理システムの構築を最優先課題としている。また、第3次5か年計画に対応したゴレスタン州農業開発計画においても水利用の効率化などが挙げられており、本プロジェクトの目標はこれらの政策と合致するものである。

イ) ゴレスタン州では天水に依存する農業形態を改め、安定的な農業生産の確保、水資源の効率的な利用に向けて灌漑農業を推進してきた。しかしながら、灌漑施設の建設・整備に重点が置かれてきたことから、その維持管理に係る制度の確立や農民の組織化は十分に行われていない。また、そのためのノウハウも十分ではなく、日本の経験を導入した制度の確立に対する期待は大きい。

ウ) 農家を対象としたワークショップやヒアリングの結果、タザ・アバッド灌漑地区の農民組織であるパイバンド農業生産組合において、水管理の強化による土壌の改善や、適季栽培と作物の多様化による営農の改善に対する要望が強いことが判明した。これらはプロジェクトが導入する参加型水管理モデルのニーズと合致している。

エ) JICA としても、以上に述べた 5 か年計画や両国政府間の政策協議の結果を踏まえ、援助重点分野として「都市と農村の格差是正」を設定している。この中で、農業生産性の向上、持続的な農業振興を図るための灌漑排水施設の整備や適正な水管理、乾燥地域に適した農業技術の普及等を行い、限られた水資源の有効活用を可能とするための技術やノウハウの移転をすることで、農民の所得を向上させることが重要としている。

エ) 日本の長年の灌漑農業で蓄積された水管理の知識や技術の活用が十分可能である。

(2) 有効性

本プロジェクトは、以下の点から有効性が見込める。

ア) プロジェクト目標として、農民が実践する参加型水管理モデルをゴレスタン州農業局が州全体に普及させるための実施体制の整備が掲げられている。そのため、成果においてはタザ・アバッド灌漑地区全体の水管理計画を策定したうえで複数のパイロットサイトにおいて試行的にモデルの形成を行う。同モデルの形成においては、日本の経験を活用して同地区に最適な参加型水管理による灌漑営農方法を確立する。同時に、その全ての過程にゴレスタン州農業局スタッフが実地研修を兼ねて参画することとなる。このような段階的な構成と恒常的なカウンターパートに対する OJT によって地域全体の開発と実施機関の能力開発の相乗効果が期待される。

イ) 2002 年 1 月～2003 年 2 月にかけて JICA が実施した開発調査「ゴルガン平原灌漑排水及び農業開発計画調査」において、タザ・アバッド灌漑地区の灌漑開発計画が策定されており、本プロジェクトは、同調査において提示された開発計画を基本に実施される。

ウ) 参加型水管理モデルは、タザ・アバッド灌漑地区のみならず、ゴレスタン州農業局によってゴレスタン州の他地域にも活用されることが想定されている。そのため、ゴレスタン州農業局スタッフの能力開発と共に、モデルの汎用性に配慮する。また、プロジェクトで得られた成果をイラン国内の関係者間で共有するためのフォーラム／ワークショップ等を開催する。

(3) 効率性

この案件は、以下の点から効率的な実施が見込める。

ア) タザ・アバッド灌漑地区の全 3,320ha のうち約 2,000ha において、ゴレスタン州農業局による灌漑基盤整備が終了しており、残りの地域もゴレスタン州により暫時整備が進められていくこととなっている。そのため、本プロジェクトにおいては、大掛かりな灌漑・排水施設の整備を必要とせず、パイロットサイトの展示圃場や農民自身が管理する第 2 次水路に付属した簡易な灌漑排水設備でイラン側が準備できないものの供与が中心となる。

イ) 本プロジェクトは、タザ・アバッド灌漑地区の農民の組織化による水管理組織の形成や組合運営、新たな営農方法の普及、これらに関するゴレスタン州農業局の人材と組織開発に重点が置かれており、知識の供与が活動の中心となる。そのため、参加型水管理や営農

などの重点分野については4人の長期専門家を配置し、他に必要とされる専門知識を短期専門家で補う投入方法としている。

- ウ) ゴレスタン州農業局は、これまでも灌漑の施設整備を行ってきており、十分な事業予算を持つ。参加型水管理モデルを普及させるための経験や知識は十分でないが、そのための営農・普及部門等による組織体制は備えている。また、能力や体制は不十分ではあるが、参加型水管理を実践する農民組織として既存の組織（ペイバンド農業生産組合）を活用できる。
- エ) 上記のア)～ウ)のとおり、広大な対象地域に対し、現地のリソースを最大限活用することで、効率的な活動の実施が可能である。

(4) インパクト

この案件の実施によるインパクトは、以下のように予測できる。

- ア) ゴレスタン州には43の農業生産組合が設立されており、研修等を通じて参加型水管理モデルを活用するための基盤があることから、ゴレスタン州農業局における参加型水管理のための普及体制を本プロジェクトで整備することで、同州における水管理モデルの普及と「水の生産性」の向上が期待できる。これにより、イラン国が掲げる「水の生産性」向上に寄与しうる。
- イ) 本プロジェクトによるタザ・アバッド灌漑地区での成果を技術的なマニュアルとして取りまとめることで、イラン国全体で農業開発推進省水資源開発・水利用最適局が行う農業用水の効率的利用に係る制度整備を支援することができる。

(5) 自立発展性

以下のとおり、本案件による効果は、以下の通りプロジェクト終了後も継続されるものと見込まれる。

- ア) イランにおいては、農業が基盤産業であるとともに、資源管理の面で水の効果的な利用が政策の主要課題であり、国家開発計画にもその重要性が掲げられていることから、協力分野における政策面での継続的な支援が期待できる。
- イ) 同国は石油や天然ガスを産出する資源大国で、政府部門の予算は潤沢である。ゴレスタン州農業局も管内の灌漑施設の整備を今後も自力で進めていく意思を持っている。また、参加型水管理モデルは外部からの特別な資金を必要とするものでなく、現地実施機関の予算の枠内で実施が可能である。
- ウ) ゴレスタン州にはタザ・アバッド灌漑地区のペイバンド農業生産組合を始めとする農業生産組合が43ある。それら既設の組織と州農業局との連携により、本プロジェクトの経験の州内他地域への普及が期待される。なお、イラン国内には農民組織が存在しない地域もあることから、イラン政府による水管理組織にかかる制度の確立において、これら組織のない地域にも適応可能な政策や制度を策定すべく、政策支援の短期専門家を本プロジェクトにおいて投入する予定である。

6. 貧困・ジェンダー・環境等への配慮

プロジェクト活動の中でこれら地域社会の実相を明らかにする。対象地域における女性筆頭

農家の存在など、個々の農民の状況にも配慮して活動を行なう。

なお、活動にあたり、隣国トルクメニスタンとの国境に近くトルクメン人が比較的多いこと、国内では少数派のスナナ派に属する住民が多いこと、などの対象地域の特性を考慮する。

7. 過去の類似案件からの教訓の活用

類似案件の有無：有

エジプト国「ナイルデルタ水管理改善計画」(2000-2007)、シリア国「節水灌漑農業普及計画」(2004-2007)、ベトナム国「農業生産性向上のための参加型水管理推進計画」(2005-2010)

これらの案件では、参加型水管理手法の導入が農民に新たな役割を求めることとなることから、導入の利点を説くのみでなく、何らかのインセンティブを農民に提供する必要があることが確認されている。

エジプト国「ナイルデルタ水管理改善計画」の場合、それは用水路の連続通水であり、ベトナム国「農業生産性向上のための参加型水管理推進計画」では水利費の軽減と用水路の整備であった。本プロジェクトにおいては、イラン国によって用水路等の灌漑施設はある程度整備されていることなどから、これらをインセンティブとはせず、農民からの強い要望にも応え、適正な水管理の実施により可能となる「新たな作物や営農技術の導入」を、参加型水管理手法の確立とあわせて州農業局が支援することが、インセンティブになると想定している。

8. 今後の評価計画

- (1) 中間評価：プロジェクト協力期間の中間時点 (2010年12月頃)
- (2) 終了時評価：プロジェクト終了の約6ヶ月前 (2013年2月頃)